

■ご挨拶

信頼性の高い風力発電装置で 持続可能な低炭素社会を！



日本風力発電協会 理事 松浦 一郎
三菱重工業株式会社 エネルギー環境ドメイン 再生エネルギー事業部長

青い空に白い風車！

広い大地や丘陵地に立ち並び、爽やかな風を受け、力強く廻ってエネルギーを生み出す風車。タワーの入り口を通り、高い垂直梯子を上りきって、ナセル上部のハッチを開けて頭を出すとそこには、下から見ていた時には想像できなかった様な遠くまで続く緑の大地と居並ぶ風車。更にサイト毎に季節毎に異なる素晴らしい景観が。

長い視点で見ると、国内外の風力発電装置は、持続可能な低炭素社会を実現するための最も重要なツールの一つである、ということは、今現在もそしてこれからも当分揺らぐことのない事実です。

その一方で、風力発電設備の導入計画、利用は、それぞれの国の政策、優遇制度で大きく揺らいできたのも現実です。

視点を身近に転ずると、風力発電装置は、私たちにとっては、期待を込めた我が子或いは、パートナーであり、誇らしく感じられる時があれば、その一方で世話の焼ける困った子、パートナーになる時もあります。

風力発電装置は羽根車の回転速度が、見た目にはゆっくり優雅に廻っているので、装置として簡単なものに思われ勝ちですが、その内実は、機械的にも電氣的にも厳しい条件で発電しています。

見方によっては、入口の条件である風が自然界からの賜物であるが故に、大型の発電装置に使われる蒸気タービンやガスタービンの様に入口条件が制御出来ず、時々刻々変動するため、より難易度の高い面もあります。

従って、風力発電装置は、信頼性の高い製品であることと適切なメンテナンスが行われることが、必須の大型の精密機械、と言っても過言ではない発電設備だと思います。

国内の風力発電は、2012年7月の固定価格買取制度導入により、各地で導入計画が大きく膨らんでいます。

その一方で同年10月の環境アセス適用により、新規導入計画は大きく遅れている、というのは皆様良く御存知の通りです。

加えて、長期的視点で立案し維持されるべきエネルギー政策が、時の政権や世論で変わりやすいものであることも、残念ながら現実として見つめていかねばなりません。

従って、私たち風力発電協会に集うメンバーは、持続可能な低炭素社会実現に向けて、あるべき政策や法制度が、安定的に運用されるよう関係先に直接或いは間接的に、説明、働きかけを行っていくことが重要となっています。

また、風力発電装置の健全な発展のためには、信頼性の高い設備であることが大前提であり、入口条件である風の実態を正確に掴んだ上で、それを踏まえた機器の信頼性高い設計、製作、制御、メンテナンスが必須です。

同時に優遇制度に依存せずグリッドパリティの実現に少しでも早く近づけるよう機器の供給、建設、運営、メンテナンス関係者で継続して努力をしていかなければならないと感じています。

そんな視点で、理事を務めて参りますので、今後とも皆様の御協力を宜しく願います。